

## 第2 精神保健福祉センター事業概要（令和元年度）

### 1 技術指導及び援助

保健所及び関係機関に対し専門的立場から指導と援助を行った。

#### (1) 保健所に対する技術援助件数

内容 保健所	老人 精神保健	社会 復帰	アル コール	薬物	ギ ャン ブル	思 春 期 保 健	心 の 健 康 づ く り	ひ き こ も り	自 殺 関 連	犯 罪 被 害	災 害	そ の 他	計	再掲	
														事 例 検 討	台 風 19 号 関 連
仙南	0	3	1	3	0	0	5	2	25	0	9	2	50	1	8
仙 台	塩釜	0	1	1	6	0	0	2	12	0	3	12	37	0	2
	岩沼支所	0	0	3	0	0	0	0	35	0	2	1	41	0	0
	黒川支所	0	0	0	0	0	0	0	21	0	1	1	23	0	1
北 部	大崎	0	1	2	3	0	0	3	15	0	0	9	33	1	0
	栗原	0	3	0	0	0	0	1	10	0	0	1	15	0	0
東 部	登米	0	0	1	0	0	2	0	15	0	0	6	27	0	0
	石巻	0	0	1	0	0	0	3	12	0	2	8	27	2	0
気仙沼	1	0	0	0	0	1	2	13	22	0	12	8	59	1	0
他	仙台市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	他 県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
計	1	8	9	12	0	3	16	19	167	0	31	48	314	5	11

#### (2) 関係機関技術援助件数

内容 関係機関	老人 精神保健	社会 復帰	アル コール	薬物	ギ ャン ブル	思 春 期 保 健	心 の 健 康 づ く り	ひ き こ も り	自 殺 関 連	犯 罪 被 害	そ の 他	計	再掲 災 害 関 連
市町村	0	0	1	1	0	1	13	30	138	0	35	219	22
医療施設	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	3	7	1
福 祉	介護保険施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	障害者支援施設	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0
	社会福祉施設	0	0	0	0	0	0	8	0	0	3	11	0
仙台保護観察所	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0
その他（県(保健所除く)・ 心のケアセンター・他)	0	1	10	51	4	6	26	37	30	1	65	231	22
計	0	17	11	55	4	7	43	75	168	1	106	487	45

## 2 教育研修

保健所, 市町村, 精神科医療機関, 相談支援事業所, 学校等の精神保健福祉に関係する職員に対して, 次のような研修会を実施した。

研修名	対象	目的	内容	開催日	会場	参加者数
精神保健福祉基礎講座Ⅰ	市町村・保健所等関係職員, 精神科医療機関・相談支援事業所等で精神障害者の相談支援に携わる経験年数の少ない者	精神障害に関する基礎知識や支援について学び, 精神障害者の理解を深め, より良い支援の提供を目指すとともに地域で活動するための連携の強化を図る。	①講義:「精神保健福祉法の動向について」 講師:当センター 企画員 遠藤 紀寿 ②講義:「精神障害の基礎知識」 講師:当センター 所長 小原 聡子 ③事例発表:「普段の生活について」 講師:当事者2人 ④グループワーク 「支援者のスタンスとチームで支援する意義は？」	令和元年 5月10日 (金)	宮城県 大崎合同庁舎	71人
精神保健福祉基礎講座Ⅱ	※基礎講座Ⅲのみみやぎ心のケアセンターと共催	面接の意義や重要性を確認し, 傾聴等基本姿勢を習得しより相手の気持ちや状況に寄り添った面接が実践できるようになる。	講義及び演習: 「相談支援のための面接技術について」 講師:東北学院大学教養学部人間科学科 准教授 東海林 渉 氏	令和元年 6月12日 (水)	精神保健福祉センター	65人
精神保健福祉基礎講座Ⅲ	市町村・保健所, 精神科医療機関, 相談支援事業所等の関係職員	WHO 版心理的応急処置の基本について学ぶ事により, 災害等の緊急時を含めた住民支援に活用する。	講義: 「WHO 版サイコロジカル・ファースト・エイド(PFA)」～みんなに知っていて欲しい災害時支援の心構えと対応～ 講師:みやぎ心のケアセンター 副センター長 福地 成 氏 東北学院大学教養学部人間科学科 准教授 東海林 渉 氏 当センター所長 小原 聡子	令和元年 7月9日 (火)	精神保健福祉センター	21人
精神保健福祉実践講座	市町村, 保健所, 精神科医療機関, 相談支援事業所等関係職員	精神疾病, ひきこもり, 飲酒等依存症問題等による, 機能不全家族・多問題家庭の支援に必要な相談支援技術の向上を図る。	講義: 「機能不全家族の理解と支援方法について」 ～問題の背景にある家族機能をアセスメントする基本を学ぶ～ 講師:中村心理療法研究室 所長 中村 伸一 氏	令和元年 9月27日 (金)	宮城県庁	64人
依存症関連問題研修会	市町村, 保健所, 精神科医療機関, 相談支援事業所等関係職員	依存症関連問題を理解し, 本人・家族への支援方法を学ぶ。	講義:「依存症を知ろう」 ～依存症の理解とその支援～ 講師:医療法人東北会 東北会病院 リハビリ支援部長 鈴木 俊博 氏 シンポジウム:「依存症からの回復」 シンポジスト:薬物依存症回復者, ギャンブル依存回復者 コーディネーター:東北会病院 鈴木 俊博 氏 当センター職員	令和元年 9月24日 (火)	宮城県庁	64人

研修名	対象	目的	内容	開催日	会場	参加者数
思春期問題研修会	市町村, 保健所, 精神科医療機関相談支援事業所, 高等学校教諭, 大学健康管理室, 警察等関係職員	若者の心の状況や問題行動の背景を理解し, 思春期・青年期の特徴や支援者の心構え・対応方法について学ぶ。	講義:「思春期を生きる～思春期の心を支えるということ～」 講師: 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育研究所 児童福祉精神保健研究部長 愛育相談所長 齊藤 万比古 氏	令和元年 8月30日 (金)	宮城県 仙台合同庁舎	100人
地域自死対策研修会	市町村・教育委員会・保健所・社会福祉協議会・高等学校・大学等の相談担当職員	自殺未遂者も含めた自死対策の普及啓発・手法について学ぶ。	第1部 講義及び演習:「地域で出来るゲートキーパー養成研修」 講師:岩手医科大学神経精神科学講座 教授 大塚 耕太郎 氏 第2部 事例検討:「市町村と県機関が連携したゲートキーパー養成の取組について」 事例提供者:仙南保健所, 当センター企画員	令和元年 5月23日 (木)	TKP 仙台カンファレンスセンター	43人
若年者メンタルヘルス対策研修会	市町村・保健所・市町教育委員会・高等学校等の職員	若年層を対象としたSOSの出し方に関する取組や大人の受け止め方に関する理解を深め対応方法を学ぶ。	第1部 講義:「子ども・若者向けの心の健康を学ぶワークについて」 講師:認定NPO法人 Switch 理事長 高橋 由佳 氏 第2部 講義:「子ども・若者のメンタルヘルスを支える」～子ども・若者の自死予防～ 講師:当センター 部技術副参事兼技術次長 水本 有紀	令和元年 12月24日 (火)	パレス 宮城野	40人
自死遺族支援シンポジウム ※自死遺族支援連絡会主催	自死遺族, 市町村・保健所・教育・その他自死遺族支援に関わる機関, 関心のある一般県民	自死遺族当事者や支援者を取り巻く現状の問題点について理解する。	シンポジウム テーマ:「私は私, あなたはあなた～子どもの“いのち”を守る教育とは～」 第1部 講演:「私は私, あなたはあなた～子どもの“いのち”を守る教育とは～」 講師:愛知東邦大学 学長 榊 直樹 氏 第2部 宮城県自死遺族支援連絡会各団体活動報告 コーディネーター:当センター所長 小原聡子 助言者:愛知東邦大学 学長 榊 直樹 氏 (話題提供者) 田中 幸子氏 (仙台わかちあいのつどい 藍の会代表) 土井 浩之氏 (東北希望の会代表) 小田島 佳子氏 (仙台いのちの電話) 滑川 明男氏 (仙台グリーンケア研究会代表)	令和元年 12月8日 (日)	仙台市 シルバーセンター	44人

研修名	対象	目的	内容	開催日	会場	参加人数
災害再生期こころの研修Ⅰ	市町村・保健所・相談支援事業所・精神科医療機関の関係職員	動機づけ面接の実際を学び、行動変容が難しい対象者への支援方法や面接技術の向上を図る。	講義及び演習： 「動機づけ面接『変わらない人』への支援について」～基本的な考え・関り方からスキルアップへ～ 講師：東北学院大学教養学部人間科学科 准教授 東海林 渉 氏 東北会病院リハビリ支援部 外来支援課係長 金田 和大 氏	令和2年 1月15日 (水)	精神保健福祉センター	36人
災害再生期こころの研修Ⅱ	市町村・保健所・医療機関・産業保健師等職員	アルコール健康障害を予防するための早期介入・指導方法を学ぶ事で、被災者の心のケア活動に対応する支援者の支援技術の向上を図る。	講義：「10分で出来る！保健指導で活かせる節酒支援」～面接で使える具体的な介入・指導方法を知ろう～ 講師：国立病院機構肥前精神医療センター 医師 福田 貴博 氏	令和元年 8月6日 (火)  8月7日 (水)	①仙台市戦災復興記念館  ②古川保健福祉プラザ	31人  37人

### 3 学生・臨床医研修生指導

保健・医療・福祉等関係の教育機関における臨地実習を受け入れ、必要な知識や技術を指導する。  
東北福祉大学実習生指導 2回（実7人）

## 4 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために、精神保健の諸問題を調査研究するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料を収集整備した。

### (1) 調査研究・実践報告

イ「市町村自殺対策計画策定支援に関する調査～アンケート調査から見えたこと～」

精神保健福祉センターに求められる地域支援のあり方のほか、今後のロールモデルとなる地域精神保健福祉活動のあり方を検討することを目的に調査を実施した。

ロ「『令和元年台風19号』発生に伴う災害派遣精神医療チーム(DPAT)派遣活動について」

令和元年台風19号による県内発災時における、DPAT派遣活動について、初期対応からを振り返り、実践報告にて考察を加え報告する。

### (2) 学会等発表

内 容	発表者	学会名	発表日
精神障害者の地域移行支援について ～アンケート調査から見えてきたもの～	伊木 威和	東北・北海道ブロック精神保健福祉センター所長会研究協議会	令和元年 6月7日 (金)

(3) 発行 所報47号を発行。関係機関に配布、ホームページに掲載

## 5 広報普及啓発

一般県民及び関係機関に対し精神保健福祉の知識の普及を図る目的で次のような活動を行った。

- (1) 自死対策及びひきこもり対策において普及啓発実施
- (2) 依存症対策としてリカバリーカードと相談窓口リーフレット配布：21,000部
- (3) ホームページによる情報提供（随時更新）

## 6 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳

精神障害者の医療及び福祉を充実するため、自立支援医療（精神通院）の承認及び精神障害者保健福祉手帳の交付を行った。

- (1) 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳審査会  
委員10人（うち県職員2人） 開催回数 24回（月2回開催）
- (2) 自立支援医療（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支持するための法律第52条）  
申請者数18,377人 承認者数18,374人（うち新規者数1,730人）
- (3) 精神障害者保健福祉手帳（精神保健福祉法第45条）  
申請者数4,903人 交付者数4,834人（うち新規者数 916人）

（令和2年3月末現在）

## 7 精神医療審査会

精神障害者に対して人権に配慮した適正な医療及び保護の確保を図るため、宮城県精神医療審査会における医療保護入院者入院届、定期病状報告書、退院等請求の審査等を行った。

### (1) 審査会開催状況及び定期病状報告書等の審査状況

区 分		件 数 等
精神医療審査会		医療保護入院者入院届 1,919件
精神医療審査会委員	20人	措置入院者定期病状報告書 27件
開催回数 全体会	1回	医療保護入院者定期病状報告書 953件
舘・舘議	1回	退 院 等 . 請 求 12件
合 議 体	24回	
		合 計 2,911件

## 8 組織の育成

地域精神保健活動の向上を図るため、地域住民参加による組織的な活動が行われるように、下記の団体等の育成に努めた。

団 体 名	援助回数	主な援助内容
宮城県精神保健福祉協会	3	精神保健福祉大会開催の支援、組織運営に関する支援
宮城県断酒会	24	組織育成支援
宮城県自死遺族支援連絡会	4	各団体の活動状況等情報交換、連携体制づくりへの支援、シンポジウム開催支援
みやぎ心のケアセンター運営委員会	2	会議参加、震災対応や組織運営等に関する支援
石巻地域不登校・ひきこもり支援者のつどい運営会議	3	各団体の活動状況情報交換等、ネットワークづくりの支援
薬物依存地域支援者ネットワーク連絡協議会	10	各団体の活動状況情報交換等、ネットワークづくりの支援



～ 来所経路別相談件数（実数）

（単位：件）

	自発的 来所	紹介元								計
		家族 知人	センター 電話相談	医療 機関	保健所	市町村	教育 機関	その他の 公的機関	その他の 機関	
件数	60	15	5	8	13	9	5	16	13	144
(内)新規相談	35	11	2	2	8	5	1	10	7	81

ト 相談内容別相談件数（実数・延数）

（単位：件）

相談内容		実	延べ
老人 精神保健	小計	0	0
	i 認知症	0	0
	ii その他	0	0
社会復帰	小計	2	2
	i 日常生活	0	0
	ii 制度利用	0	0
	iii その他	2	2
依存症 問題	小計	38	86
	i アルコール	7	25
	ii 薬物関連	11	22
	iii ギャンブル	15	31
	iv その他	5	8
思春期 相談	小計	5	26
	i 心の不調	0	0
	ii 家族関係	0	0
	iii 人間関係	0	0
	iv 不登校	2	8
	v 自立・社会参加	3	18
	vi 生活困窮	0	0
	vii 性の悩み	0	0
	viii その他	0	0

相談内容		実	延べ
心の健康 づくり	小計	92	429
	i 心の不調	7	29
	ii 家族関係	12	43
	iii 人間関係	2	10
	iv 不登校	0	0
	v 自立・社会参加	71	347
	vi 生活困窮	0	0
	vii 性の悩み	0	0
	viii その他	0	0
うつ・うつ状態		2	2
摂食障害		0	0
てんかん		0	0
その他	小計	5	28
	i 精神症状	1	24
	ii 病気治療	0	0
	iii その他相談	4	4
	iv 問合せ	0	0
	v 話し相手を求めて	0	0
計		144	573

（相談件数再掲）

（単位：件）

	ひきこ もり	発達障 害	自殺関 連	自 殺	遺 族	死 者	犯 罪	災 害
実数	75	3	1	0	0	0	0	
延数	396	22	4	0	0	0	0	



(2) 電話相談

イ 対象者性別・年齢別相談件数(延件数)

相談対象者		年 齢								計	合計
		15歳以下	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	年齢不詳		
一般電話	男	7	12	27	22	19	13	24	72	196	394
	女	8	17	21	10	11	10	21	64	162	
	不明	2	3	0	1	0	1	2	27	36	
こころの 相談電話	男	9	27	236	150	154	81	122	104	883	2,473
	女	7	13	99	89	348	469	211	162	1,398	
	不明	2	0	1	0	0	1	6	182	192	
合計		35	72	384	272	532	575	386	611	2,867	2,867

ロ 対象者職業別・年齢別相談件数(延件数)

職業別		年 齢								計
		15歳以下	16～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	年齢不詳	
学 生		32 (0)	45 (0)	24 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	7 (0)	112 (0)
会 社 員		0 (0)	7 (0)	30 (0)	49 (0)	125 (0)	49 (0)	12 (0)	60 (0)	332 (0)
自 営 業		0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	10 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (0)	28 (0)
ア ル バ イ ト ・ パ ー ト		0 (0)	0 (0)	19 (0)	63 (0)	80 (1)	182 (1)	63 (0)	46 (0)	453 (2)
主 婦		1 (0)	1 (0)	12 (0)	22 (0)	66 (0)	72 (0)	91 (0)	17 (0)	282 (0)
そ の 他		0 (0)	3 (0)	204 (0)	33 (0)	42 (0)	14 (0)	2 (0)	20 (0)	318 (0)
無 職		1 (0)	11 (0)	83 (0)	84 (0)	187 (0)	234 (1)	170 (0)	52 (0)	822 (1)
不 明		1 (0)	5 (0)	12 (0)	13 (0)	21 (0)	19 (0)	44 (0)	405 (0)	520 (0)
計		35 (0)	72 (0)	384 (0)	272 (0)	532 (1)	575 (2)	386 (0)	611 (0)	2,867 (3)

( ) は災害に関する相談を再掲

ハ 相談種別ごとの電話のかけ手(延件数)

相談種別 処遇内容	老人精神	社 会	ア ル	薬 物	ギ ャ ン	思 春 期	心 の 健 康	う つ ・ 摂	食 害	て かん	そ の 他	計	再 掲 コ ロ ナ 関 連
	保 健	復 帰	コ ー ル		ル		づ くり	障 害	か ん				
本人	58 (0)	21 (0)	9 (0)	1 (0)	13 (0)	37 (0)	1,566 (3)	40 (0)	0 (0)	14 (0)	722 (0)	2,481 (3)	4
家族	3 (0)	4 (0)	17 (0)	8 (0)	36 (0)	33 (0)	117 (0)	10 (0)	0 (0)	0 (0)	64 (0)	292 (0)	0
知人	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	13 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)	25 (0)	0
その他	2 (0)	1 (0)	11 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (0)	19 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (0)	69 (0)	0
計	63 (0)	26 (0)	38 (0)	11 (0)	49 (0)	87 (0)	1,715 (3)	51 (0)	0 (0)	15 (0)	812 (0)	2,867 (3)	4

( ) は災害に関する相談を再掲

ニ 相談種別による処遇内訳件数(延件数)

相談種別 処遇内容	老人精神	社 会	ア ル	薬 物	ギ ャ ン	思 春 期	心 の 健 康	う つ ・ 摂	食 害	て かん	そ の 他	計	再 掲 コ ロ ナ 関 連
	保 健	復 帰	コ ー ル		ル		づ くり	障 害	か ん				
傾聴・助言	61 (0)	23 (0)	17 (0)	9 (0)	21 (0)	62 (0)	1,658 (3)	45 (0)	0 (0)	13 (0)	763 (0)	2,672 (3)	4
医療機関紹介	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	9 (0)	17 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	16 (0)	55 (0)	0
関係機関紹介	0 (0)	3 (0)	9 (0)	2 (0)	15 (0)	13 (0)	23 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (0)	97 (0)	0
来所相談	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	11 (0)	3 (0)	17 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (0)	43 (0)	0
計	63 (0)	26 (0)	30 (0)	16 (0)	49 (0)	87 (0)	1,715 (3)	51 (0)	0 (0)	15 (0)	815 (0)	2,867 (3)	4

( ) は災害に関する相談を再掲

(3) 思春期相談事業（精神保健福祉相談のうち思春期関連問題の相談を再掲）

イ 性別・来談者別相談件数（実人数）

区分 性別	本人来所	本人及び 家族	本人及び 関係者	家族及び 関係者	家族のみ	関係者 のみ	計
男	0	1	0	0	1	0	2
女	0	1	0	0	2	0	3
計	0	2	0	0	3	0	5

ロ 性別・来談者別相談件数（延人数）

区分 性別	本人来所	本人及び 家族	本人及び 関係者	家族及び 関係者	家族のみ	関係者 のみ	計
男	0	1	0	0	12	0	13
女	0	7	0	0	6	0	13
計	0	8	0	0	18	0	26

ハ 年度末における転帰（実人数）

相談内容 処遇	心の不調	家族関係	人間関係	不登校	自立・ 社会参加	生活困窮	性の悩み	その他	計
年度内に終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0
次年度へ継続	0	0	0	2	3	0	0	0	5
計	0	0	0	2	3	0	0	0	5

(4) 心の健康づくり推進事業（心の健康ダイヤル相談）

イ 相談種別ごとの電話のかけ手（延件数）

相談種別 掛け手	老人精 神保健	社 会 復 帰	ア ル コ ー ル	薬 物	ギ ャ ン ブ	思 春 期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂 障	食 害	て か ん	そ の 他	計
本 人	58	18	4	0	0	35	1,498(2)	34	0	14	658	2,319(2)	
家 族	0	1	2	0	3	15	80	2	0	0	25	128	
知 人	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	10	
そ の 他	1	0	0	0	0	4	9	0	0	0	2	16	
計	59	19	6	0	3	54	1,597(2)	36	0	14	685	2,473(2)	

( )は災害に関する相談を再掲

ロ 相談種別による処遇内訳件数（延件数）

相談種別 処遇内容	老人精 神保健	社 会 復 帰	ア ル コ ー ル	薬 物	ギ ャ ン ブ	思 春 期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂 障	食 害	て か ん	そ の 他	計
傾聴・助言	59	18	6	0	3	50	1,587(2)	36	0	13	677	2,449(2)	
医療機関紹介	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	6	
関係機関紹介	0	1	0	0	0	3	9	0	0	0	5	18	
来所相談	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	
計	59	19	6	0	3	54	1,597(2)	36	0	14	685	2,473(2)	

( )は災害に関する相談を再掲

## 10 精神科外来診療

センターにおける事業の一環として、外来診療を実施し、精神障害者の治療に当たった（精神科デイケアを含む）。

### (1) 月別外来件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療日数等	診療日数	14	14	16	17	12	15	13	16	15	14	14	13	173
	新患 (実人数)	0	3	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	6
	全診療件数 (延人数)	129	128	120	146	98	133	134	139	128	113	111	103	1,482
検査等	血液・尿検	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
	院内処方箋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	院外処方箋	32	32	29	33	21	30	28	25	24	25	14	21	314

### (2) 性別年代別外来患者件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

性別 \ 年齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
男	0	4	13	5	2	1	25
女	0	12	7	3	2	0	24
計	0	16	20	8	4	1	49

### (3) 性別年代別外来患者件数（延人数）

性別 \ 年齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
男	0	222	634	46	16	9	927
女	0	314	226	8	7	0	555
計	0	536	860	54	23	9	1,482

(4) 保健所管轄別・年代別外来件数 (実人数：新患実数+前年度からの継続再来実数)

管 轄		年 齢						計	割合
		19歳以下	20歳代	30歳以下	40歳代	50歳以下	60歳以上		
仙	南	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
塩釜	釜	0	0	1	0	0	0	1	2.0%
	岩沼支所	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	黒川支所	0	1	0	0	0	0	1	2.0%
大	崎	0	10	15	5	1	1	32	65.3%
栗	原	0	3	2	0	1	0	6	12.2%
石	巻	0	1	0	0	0	0	1	2.0%
登	米	0	1	2	2	1	0	6	12.2%
気	仙沼	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
仙	台市	0	0	0	1	1	0	2	4.1%
県	外	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計		0	16	20	8	4	1	49	100.0%

\*割合については、表示単位未満を四捨五入しているため数値の計と合計は合致しない。

(5) 診断結果別・年代別外来件数 (実人数：新患実数+前年度からの継続再来実数)

診 断 名	年 齢						計
	19歳以下	20歳代	30歳以下	40歳代	50歳以下	60歳以上	
アルコール関連障害	0	0	0	0	0	0	0
精神作用物質による精神障害	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症・分裂病型障害	0	6	7	2	1	1	17
気分障害	0	4	7	4	1	0	16
神経症性障害	0	4	3	0	1	0	8
摂食障害	0	0	0	0	0	0	0
睡眠障害	0	0	0	0	0	0	0
人格及び行動障害	0	0	0	0	0	0	0
精神遅滞	0	0	0	0	0	0	0
青年期の行動・情緒の障害	0	2	2	0	0	0	4
脳器質性精神病	0	0	0	0	0	0	0
てんかん	0	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	2	1	0	3
計	0	16	20	8	4	1	49

## 1.1 デイケア事業

精神疾患を有する思春期・青年期の方を対象（年齢は16歳（義務教育終了者）から概ね35歳まで）とし、精神的な自立と自分らしさの獲得を目標に、集団療法のほか個人面接や家族面接も実施し、一人一人の希望や目標に向けて支援を行った。

### (1) 実施状況・参加者の状況

実施日数・回数			出席者	
			延べ	平均
139日			1,227人 (前年 1,331人)	8.8人 (前年 8.8人)
内訳	デイケア	138回	764人	5.5人
	ショートケア	265回	467人	1.8人

前年度からの継続登録者 (人)	今年度新規登録者 (人)	今年度利用者 (実数) (人)	終了者 (人)	次年度継続登録者 (人)
18	3	22	7	15

※ほか今年度再登録者：1人

※今年度登録者数：22人

### (2) 利用者（登録者）の状況

#### イ 年齢区分

性別	年齢					計
	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上	
男	0	1	3	5	0	9
女	0	4	6	3	0	13
計	0	5	9	8	0	22

#### ロ 居住地区分

大崎圏域	栗原圏域	登米圏域	その他	計
16	1	3	2	22

#### ハ 利用年数

1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 8年未満	8年以上	計
4	9	4	4	1	22

#### ニ 診断分類（ICD-10分類）

F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	計
0	0	9	4	8	0	0	0	1	0	22

F0 症状性を含む器質性精神障害

F1 精神作用物質使用による精神及び行動の障害

F2 統合失調症、統合失調型障害及び妄想性障害

F3 気分（感情）障害

F4 神経性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害

F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群

F6 成人の人格及び行動の障害

F7 精神遅滞

F8 心理的発達障害

F9 小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害、特定不能の精神障害

#### ホ 紹介元（主治医の所属別）

病院	診療所	センター附属 診療所	計
13	4	5	22

(3) 終了者の状況

	就(復)職	就労移行・継続事業所	相談支援・地域活動支援センター	その他の支援施設	就(復)学	家業・家事(手伝い)	在宅	入院	その他	計
男	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
女	2	2	0	0	0	0	1	0	0	5
計	2	2	1	0	0	0	2	0	0	7

(4) 面談・電話相談対応実績

利用者の支援については担当スタッフを設け、担当スタッフと定期的に面談の時間を設定しながら、デイケア利用の目的の整理やプログラム利用の動機付け、変化点の確認を行っている

面談相談 (人)	電話相談 (人)
実22 (延174)	実10 (延23)

(5) デイケアの内容

プログラムを通して、同世代での仲間作りの場、新しい体験や興味を広げる場、自信や自己肯定感の回復の場となるように実施している。そのため、利用者（メンバー）の状況等に合わせ、きめ細やかに支援を行うため、プログラムは毎月作成している。「美術」、「音楽」、「調理」、「陶芸」プログラムは、外部に講師を依頼し、定期的にプログラムの中に組み込むほか、デイケアスタッフ以外の職員を活用したプログラムや定期的に外出やイベントも組み込んでいる。

分類	プログラム	回数
創作	アートの時間	10 (うち外部講師10回)
	調理	10 (うち外部講師10回)
	陶芸	13 (うち外部講師13回)
	ものづくり	16
表現	音楽活動	18 (うち外部講師16回)
	悩める若者の会	12
	テーマトーク	12
	サロン・ドゥ・スタッフ	11
	困った場面を練習してみよう！(SST)	2
運動	スポーツ	23
	軽運動	8
	和太鼓	5
交流	茶話会	4
	サロン・ドゥ・メンバー	12
	みんなでレッツダンス	1
学び	大人への扉・ステップ by ステップ	11
	就労	5 (うち外部講師5回)
	宮城県精神保健福祉大会	1
話し合い	ミーティング	27
フリータイム	集中力↑time	42
	自主活動	16
外出・イベント	所外行事	3
	イベント	3

1 2 依存症対策事業（精神保健福祉相談のうち依存症関連問題の相談を再掲）

関係機関、民間支援団体等と連携しながら、依存症の予防対策から回復支援対策の推進に努めた。

(1) 来所相談

イ 相談件数

年度 相談件数	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	
				(延人数)	(延人数)		(延人数)
アルコール	1	3	5	6	9	18	25
薬物関連	0	3	4	15	5	37	22
ギャンブル	0	3	8	10	14	21	31
その他	0	0	2	3	2	3	8
計	1	9	19	34	30	79	86

ロ 来談者別相談件数（実人数）

年齢 相談内容	本人及び 家族のみ		本人及び 関係者のみ		家族及び 関係者		計
	本人のみ	本人及び 家族	本人及び 関係者	家族のみ	関係者のみ	家族及び 関係者	
アルコール	4	1	0	2	0	0	7
薬物関連	3	1	2	5	0	0	11
ギャンブル	3	4	0	6	1	1	15
その他	1	1	0	2	0	1	5
計	11	7	2	15	1	2	38

ハ 年代別相談件数（実人数）

年齢 相談内容	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
	アルコール	0	0	1	3	0	
薬物関連	0	1	4	4	2	0	11
ギャンブル	0	6	5	2	2	0	15
その他	1	1	0	1	0	2	5
計	1	8	10	10	4	5	38

ニ 年度末における転帰（実人数）

転帰 相談内容	助言・終了		計
	助言・終了	継続	
アルコール	4	3	7
薬物関連	2	9	11
ギャンブル	3	12	15
その他	3	2	5
計	12	26	38

(2) 電話相談（電話相談のうち依存症関連問題の相談を再掲）

イ 年代別相談件数（延件数）

年齢 相談内容	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	年齢不詳	計
アルコール	0	1	3	2	2	4	18	30
薬物関連	0	0	0	0	3	1	12	16
ギャンブル	0	1	2	4	4	2	36	49
ゲーム	4	2	0	1	0	0	0	7
その他	1	0	0	2	2	3	11	19
計	5	4	5	9	11	10	77	121

ロ 電話のかけ手（延件数）

本人	家族	知人	その他	計
31	76	3	11	121

ハ 処遇内訳件数（延件数）

傾聴・助言	医療機関紹介	関係機関紹介	来所相談	計
60	7	32	22	121

(3) 依存症関連問題研修会

開催日	会場	対象	内容	参加人数
令和元年 9月24日 (火)	宮城県庁	市町村、県保健所、 精神科医療機関、障 害福祉サービス事業 所、司法関係機関等 依存症に関する問題 を抱える当事者及び 家族から相談を受け る機会のある担当職 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●テーマ「依存症を知ろう」 講演：依存症の理解とその支援 講師：医療法人東北会 東北会病院 リハビリ支援部長 鈴木 俊博 氏</li> <li>●シンポジウム 依存症からの回復 シンポジスト：薬物依存症回復者 ギャンブル依存症回復者 コーディネーター：東北会病院 鈴木 俊博 氏 当センター職員</li> </ul>	64人

(4) 依存症家族会

回数	参加家族数	参加実人数	参加延人数
10回	10家族	11人	62人

※会の前半は講話・勉強会、後半は情報交換会を実施。



(5) 薬物依存集団回復プログラムNICE

回数	参加実人数	参加延人数
6回	5人	14人

※会の前半は講話・勉強会、後半は情報交換会を実施。

(6) 関係機関との連携

会議名	回数
薬物ネットワーク連絡協議会	9
薬物依存地域支援連絡協議会	1
令和元年度薬物事犯関係引受人会	3
大崎地区薬物乱用防止指導員協議会及びダメゼッタイ運動	2
令和元年度北海道・東北地区薬物中毒対策連絡会議	1
令和元年度宮城県薬物乱用対策庁内会議	1
令和元年度宮城県薬物乱用対策有識者会議	1
令和元年度宮城県薬物乱用対策推進本部会議	1
令和元年度仙台市アルコール問題対策連絡会議	1
令和元年度仙南地区薬物乱用防止指導員研修会講師	1
令和元年度依存症相談対応指導者養成研修 「宮城県実践報告発表」	1
東北地方再犯防止シンポジウム パネルディスカッション シンポジスト	1

(7) 普及啓発

リカバリーカードを配布

- ・企業提携を活用し、県内ファミリーマート371店舗に18,550枚配布。
- ・仙南保健福祉事務所、大崎保健福祉事務所の協力を得て配布。

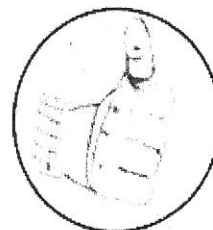
コラム 「薬物依存集団回復プログラムN I C Eを始めました」

仲間と 一緒に チャレンジ

宮城県精神保健福祉センターでは、薬物を止め続けるための具体的な手立てを学び、薬物問題を抱える仲間との出会い・交流を通して、依存症からの回復を支え合うプログラムを令和元年10月から始めました。

NICEは「仲間と 一緒に チャレンジ」という意味で、テキストを使った学習や、リカバリングスタッフを交えたミーティングなどを行っています。

参加される方、スタッフ、そして支えてくれる様々な関係者にとって、NICEな場所になるように、おもてなしの心で、続けていきたいと思えます。詳細は当センターのホームページをご覧ください。



1.3 ひきこもり対策（宮城県ひきこもり地域支援センター）

平成26年1月から精神保健福祉センター内に「宮城県ひきこもり地域支援センター」を開設し、ひきこもりに関する相談、家族会、研修等の事業を行った。また、平成27年9月には仙台市内に南支所（「NPO法人わたげの会」に委託）を開設し、県南部の相談支援の充実を図った。

(1) ひきこもり地域支援センター活動実績（南支所除く）

イ 来所相談

(イ) 相談件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新規相談実人数	22	15	18	28	28
継続相談実人数	29	27	33	44	46
合計（実人数）	51	42	51	72	74
相談者総数（延人数）	264	327	324	414	400

(ロ) 性別・来談者別相談件数（実人数）

性別	区分 本人のみ	本人及び 家族のみ	関係者及び 家族のみ	計
男	2	9	43	54
女	2	5	11	20
計	4	14	54	74

(ハ) 性別・年代別相談件数（実人数）

性別	区分 19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	計
男	2	22	18	9	3	54
女	3	10	7	0	0	20
計	5	32	25	9	3	74

(ニ) 年度末における転帰（実人数）

性別	処遇 助言・終了	継続	計
男	9	45	54
女	2	18	20
計	11	63	74

ロ 電話相談

(イ) 対象者性別・年齢別相談件数（延件数）

性別	年齢 19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	年齢不詳	計
男	8	24	10	11	27	19	99
女	9	31	8	2	8	7	65
不明	3	0	0	1	0	5	9
合計	20	55	18	14	35	31	173

(ロ) 電話のかけ手（延件数）

本人	家族	その他	計
75	64	34	173

(ハ) 処遇内訳件数（延件数）

助言指導	来所予約	医療機関 紹介	その他の 機関紹介	計
125	22	1	25	173

ハ 青年期（ひきこもり）家族会

ひきこもり等の問題を抱える家族を対象に家族会を実施した。

	会場	回数	参加家族数	参加実人数	参加延人数
平成28年度	当センター	12	23	26	157
平成29年度	当センター	12	22	25	126
平成30年度	当センター	11	26	31	122
令和元年度	当センター	11	32	40	181
	気仙沼保健所	4	4	4	11

ニ 研修会

研修名	対象	内容	会場	開催年月日	参加者数
ひきこもり支援研修会	大崎市の民生委員・児童委員	①講話「ひきこもりの理解と支援」 講師：当センター 部技術副参事兼技術次長 水本有紀 ②相談先・資源紹介 ③グループワーク・全体共有・質疑応答	宮城県大崎合同庁舎	令和2年 1月30日 (木)	110人

※大崎市民生委員・児童委員向けひきこもり支援研修会は、ひきこもり・不登校支援関係者座談会 in おおさきの関係者の協力を得て、企画・運営を行った。

ホ 普及啓発

(イ) ひきこもり市民講座

研修名	対象	内容	会場	開催年月日	参加者数
ひきこもり市民講座	ひきこもりに悩む御家族、ひきこもり問題に関係のある方、ひきこもりの支援に携わっている方	①講演 「ひきこもりの理解と回復のプロセス」 講師：当センター 部技術副参事兼技術次長 水本有紀 ②当事者からのメッセージ（対談形式） ③相談先・資源紹介 美里町、美里町社会福祉協議会、 当センターからの紹介	美里町駅東地域交流センター	令和元年 11月19日 (火)	70人

(ロ) ひきこもりサポートブックの増刷 4,000部

ヘ アウトリーチ居場所支援

- ・ひきこもりフリースペース「ココぽか」 H30.10開始、月1回開催・計11回実施  
センター実施 会場：みやぎ生協名取西店 参加者数 実6人・延35人

ト 講師派遣及び支援者支援

(講師派遣)

- ・民生委員 6件
- ・困窮者自立支援窓口 2件
- ・教育（不登校・ひきこもり） 4件
- ・生活保護・一人親支援 1件
- ・市民・市町村職員 1件
- ・高齢者総合相談センター 1件

(支援者支援)

- ・ひきこもり相談支援スーパーバイズ事業 1回開催（1事例） 参加機関4
- ・家族会支援者向け体験事業 家族会（2クール10回）の体験：5人の参加

チ 関係機関とのネットワークづくり

- ・石巻地域不登校・ひきこもり支援者のつどい 計3回（運営会議3回）
- ・大崎市ひきこもり・不登校支援関係者座談会開催 計6回（全体会1回、作業部会5回）  
（「社会資源マップ」更新 2回）

(2) ひきこもり地域支援センター南支所活動実績

イ 来所相談

(イ) 相談件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新規相談	41	41	32	28	19
継続相談実人数	0	11	17	15	19
合計(実人数)	41	52	49	43	38
相談者総数(延人数)	113	200	205	196	172

(ロ) 性別・年代別相談件数(実人数)

区分 性別	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	計
男	4	13	6	3	0	26
女	1	1	7	3	0	12
計	5	14	13	6	0	38

(ハ) 年度末における転帰(実人数)

性別 処遇	助言・終了	継続	計
男	3	23	26
女	2	10	12
計	5	33	38

ロ 電話相談

(イ) 対象者性別・年齢別相談件数(延件数)

性別 年齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	年齢不詳	計
男	8	22	12	4	4	8	58
女	3	5	8	7	2	0	25
不明	2	0	0	0	0	11	13
計	13	27	20	11	6	19	96

(ロ) 電話のかけ手(延件数)

本人	家族	その他	計
18	59	19	96

(ハ) 処遇内訳件数(延件数)

助言指導	来所予約	医療機関紹介	その他の 機関紹介	計
52	22	0	22	96

(3) 居場所支援「ほっとすぺーす クローバー」

個別支援で関わっているひきこもり当事者に対し、精神保健福祉センターを会場として、社会参加に向けた中間的な居場所を提供し、集団支援を行った。

実施回数	参加実人数	参加延人数
42	22	325

#### 1.4 自死対策（自死対策推進センター）

「宮城県自殺対策推進センター（平成29年4月に「宮城県自死予防情報センター（平成27年6月設置）」から名称変更）」として、相談支援、関係機関職員等の人材育成及び技術支援、普及啓発、ネットワーク構築等のほか、市町村自殺対策計画策定支援に取り組んだ。

##### (1) 電話相談

自死対策推進センターの専用電話相談を開設し、自死に関する相談に対応した。

###### イ 対象者性別・年齢別相談件数（延件数）

年齢	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	年齢不詳	計
男	2	149	19	9	5	10	14	208
女	5	20	7	19	11	7	36	105
不明	1	0	0	0	0	0	9	10
合計	8	169	26	28	16	17	59	323

###### ロ 電話のかけ手（延件数）

本人					自死遺族	家族知人	支援者	自死相談計	その他	合計
希死念慮	自殺企図	自殺未遂	その他	小計						
103	11	7	1	122	4	10	4	140	183	323

###### ハ 対応内訳件数（延件数）

傾聴・助言	来所面接	医療機関紹介	関係機関への繋ぎ・紹介	緊急介入	その他	合計
293	8	1	19	2	0	323

##### (2) 来所相談

###### イ 相談件数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
新規相談実人数	3	2	6
前年度からの継続実人数	1	0	0
合計（実人数）	4	2	6
合計（延人数）	5	4	8

###### ロ 性別・年齢別来所相談件数（実人数）

	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	計
男	1	0	0	1	0	1	3
女	2	0	0	0	1	0	3
合計	3	0	0	1	1	1	6

###### ハ 対応内訳件数

助言終了	継続相談	精神科紹介	他機関紹介	計
6	0	0	0	6

##### (3) 自殺対策計画策定支援

計画策定や推進に係る個別相談等を保健所と連携して実施し、令和元年度に策定予定の6市町村で策定が終了。計画策定終了（32市町村・仙台市除く）

イ 計画策定に係る個別相談：18件

ロ 市町村等主催会議及び研修会における講師対応：13件（10市町（延11件）、その他関係機関2箇所実施）

(4) 人材育成（詳細は教育研修参照）

- 自死に関する相談支援に活用できる内容の研修会を開催し、支援者の技術向上を図った。
- イ 「地域で出来るゲートキーパー養成研修」をテーマに地域自死対策研修会開催。
  - ロ 「子ども・若者向けの心の健康を学ぶワークについて」「子ども・若者のメンタルヘルスを考える」をテーマに若年者メンタルヘルス対策研修会開催。
  - ハ 災害対応の支援者の専門性向上を図るため「WHO版サイコロジカルファースト・エイド（PFA）」をテーマに研修会を開催。

(5) 普及啓発

- イ 相談機関一覧「つながりを信じて」：350部配布
- ロ 自死対策推進センターリーフレット：5,000部改訂増刷
- ハ 3月の自殺対策強化月間にあわせ、一般向け普及啓発パンフレット：7,000部、一般向け・未遂者向け啓発カード：23,000部を作成し、関係宛てに配布
- ニ ホームページによる情報提供（随時）

(6) 技術支援

- イ 市町村計画策定支援及び計画進捗管理に関する相談対応：272件（内、保健所：152件、市町村：111件、その他：9件）
- ロ ポストベンションに関する相談対応：2件（市町村：1件、企業・事業所1件）
- ハ 若年対策モデル事業：モデル地区（登米市）を選定し、市保健師、家庭児童相談員、教育委員会職員等向け「SOSの受け止めに関する研修」（1回：22人参加）を開催。

(7) 自死遺族等支援

- イ 自死遺族支援連絡会等への参加 3回
- ロ 自死遺族支援シンポジウム開催 1回（令和元年12月8日（日）：来場者44人）

## 1 5 災害対応関連事業

被災者の心のケアに対応するため支援者に対する研修会を開催したほか、沿岸被災地での地域精神保健活動の充実に向けた技術支援を実施している。

令和元年度は、令和元年10月に発生した台風19号に伴う豪雨被害への被災者及び支援者支援も実施した。

### (1) 東日本大震災被災地支援関連 イ 人材育成 (再掲)

研修名	対象	目的	内容	開催日	会場	参加者数
精神保健基礎講座Ⅲ	市町村・保健所等関係職員、精神科医療機関・相談支援事業所等で精神障害者の相談支援に携わる者	WHO版心理的応急処置の基本について学ぶ事により、災害等の緊急時を含めた住民支援に活用する。	講義：「WHO版サイコロジカル・ファースト・エイド(PFA)」 ～みんなに知っていて欲しい災害時支援の心構えと対応～ 講師：みやぎ心のケアセンター 副センター長 福地成氏 東北学院大学教養学部人間科学科 准教授 東海林渉氏 当センター所長 小原聡子	令和元年 7月9日 (火)	精神保健福祉センター	21人
災害再生期のケア研修Ⅰ	市町村・保健福祉事務所・相談支援事業所・精神科医療機関の関係職員	動機づけ面接の実際を学び、行動変容が難しい対象者への支援方法や面接技術の向上を図る。	講義及び演習： 「動機づけ面接『変わらない人』への支援について」～基本的な考え・関り方からスキルアップへ～ 講師：東北学院大学教養学部人間科学科 准教授 東海林渉氏 東北会病院リカバリー支援部 外来支援課係長金田和夫氏	令和2年 1月15日 (水)	精神保健福祉センター	36人
災害再生期のケア研修Ⅱ	市町村・保健福祉事務所・医療機関・産業保健師等職員	アルコール健康障害を予防するための早期介入・指導方法を学ぶ事で、被災者の心のケア活動に対応する支援者の支援技術の向上を図る。	講義：「10分で出来る！保健指導で活かせる節酒支援」～面接で使える具体的な介入・指導方法を知ろう～ 講師：国立病院機構肥前精神医療センター 医師 福田貴博氏	令和元年 8月6日 (火)  8月7日 (水)	仙台市戦災復興記念館  古川保健福祉プラザ	31人  37人

#### ロ 被災者支援関係機関との連携 (技術支援)

本庁、みやぎ心のケアセンター、沿岸部保健所等との被災者支援及び地域精神保健活動についての打合せ及び助言等

### (2) 台風19号関連

#### イ 電話相談：相談件数3件

心の電話ホットラインの開設 (令和元年10月15日から令和2年3月31日まで)

#### ロ 被災地支援 (災害派遣等)

(イ) DPAT活動 (令和元年10月15日から令和元年11月13日まで)：活動回数6回

被災精神科医療機関の情報収集、避難所での診療及び相談対応、支援者の心のケア等実施

(ロ) 心のケアチーム活動 (令和元年11月14日から令和元年12月11日まで)：活動回数3回

避難所での被災者状況把握、被災者支援に係る関係機関打合せ、被災者支援・町職員のラインケアへの助言及び技術支援の実施

(ハ) 被災地技術支援 (令和元年12月12日以降)：活動回数6回

精神保健活動に係る関係機関打合せ、被災者支援・町職員や社協等支援者のラインケアへの助言及び技術支援

(3) 災害派遣精神医療チーム（以下DPATとする）体制整備

イ 人材育成「宮城県DPAT研修会」（県精神保健推進室主催）

(イ) 対象 精神医療機関従事者，行政職員等

(ロ) 目的 災害時の精神医療活動の具体的な手法及び，DPATの役割や連携の在り方について理解を深める。

(ハ) 講義及び演習

➤ 災害時のこころのケア活動について(DPAT概論)

講師：筑波大学医学医療系災害・地域精神医学 准教授 高橋 晶 氏

➤ 宮城DPATの運用について

講師：宮城県精神保健福祉部精神保健推進室

➤ 宮城DPATの心構え

講師：当センター 所長 小原 聡子

➤ 災害時のDPAT活動の実際について

1) 先遣隊の活動

講師：宮城県精神医療センター 副主任看護師 本間 竜太 氏

2) ロジスティクスの役割とDPAT活動

講師：仙台市健康福祉局障害福祉部障害者支援課 障害保健係長 佐藤 大介 氏

3) 支援者支援と派遣終了時期の活動

講師：東北大学病院精神科 助教 上田 一気 氏

4) 令和元年台風19号におけるDPAT活動

講師：当センター 所長 小原 聡子

➤ 子どもの支援について

講師：仙台市精神保健福祉総合センター所長 林みづ穂 氏

➤ 機器操作演習&グループワーク

(ニ) 開催年月日 令和元年11月30日(土)

(ホ) 場 所 宮城県庁

(ヘ) 参加人数 54人

ロ DPATマニュアル作成支援

本庁，精神医療センターと連携しDPAT活動の在り方及び活動マニュアル作成に向けた打合せ：計5回

ハ 関係機関との連携

災害医療コーディネーター意見交換会への出席

本庁と人材育成研修の開催関連打合せ

●DPATについて

DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) の略

DPATとは集団災害の後，被災地域に入り精神科医療および精神保健活動の支援を行う，専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チームのことです。

自然災害や犯罪事件，航空機・列車事故等の集団災害が発生した場合，被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下し，さらに災害ストレス等により新たに精神的問題が生じる等，精神保健医療への需要が拡大します。このような災害の場合には，被災地域の精神保健医療ニーズの把握，各種関係機関等とのマネジメント，専門性の高い精神科医療の提供と精神保健活動の支援が必要となり，DPATが活動します。